069 23 07 13 28 年月日 ページ No.

中小の板金DX支える

見積もり業務の属人化 決すべきニーズの高い 加工業界において、解 トフォーム(基盤) での注力製品は。 デックス)』だ。 板金 『FANDX(ファン 「クラウド型プラッ MF-TOKYO 検の飛躍的な効率化な みや人工知能(AI) ボット業界で、組み込 す。 の事業を強化していま コンサルティングサー ど課題解決を図る」 ―板金加工業界向け 「豆蔵は自動車・ロ

解消や平準化、設備点

ビスを提供しているソ

会「MF-TOKYO」に合わせ、中原社 長に聞いた。 日まで開かれる、塑性加工技術の総合展示 中小板金加工会社に特化したデジタル変革 2021年にソフトウエア会社からレーザ が、板金加工向けの事業を強化している。 (DX) アプリケーションを投入した。15 -溶接部門の人員譲渡を受け、22年末には 豆蔵(東京都新宿区、中原徹也社長)

中原 徹也氏



豆蔵社長

の満足度を上げていく 考えますか。 界の顧客の実際の声を を通じて、創業時から 発している」 れから 『FANDX』 フトウエア企業だ。こ 反映しつつ、業界に精 い。今回、板金加工業 蓄積してきた技術ノウ ハウを提供していきた 通する人材が機能を開 ―受注状況はどうで すでにたくさんの 「22年11月末に投入 島ケース(鹿児島県日 戴し、契約につながっ 顧客から引き合いを頂 ための開発投資を続け ている。例えば、鹿児 置市)が現場作業の効

率化をテーマに、『設 備点検アプリ』を利用 という成果が出てい 作業時間を半減できた れがゼロになった上、 いただき、点検作業漏

「リリースした製品 一今後の課題をどう

業課題を解消 ション(定額制)型の ていく。サブスクリプ

学生的目 「大学性」 「大学を続け、後、プラットフォームの利力を 「大学を続け、後、プラットフォームの利力を 「大学を続い、一等の一点を 「大学を表して、一点でなくでも使いこな 「大学があるはずだ。企業体力とソールは需要があるはずだ。企業体力とソールは需要があるはずだ。企業体力とソークト開発やコンサルの知見を組み合わせ、いかにツールをアップデートしまりである。

続けるかに着目したい。 (南東京支局長・六笠友和)

日刊工業新聞 - 株式会社豆蔵